

東京美術学校の朝鮮留学生

佐藤 由美

はじめに

1. 日本統治下朝鮮留学生の全体像と美術専攻留学生
 2. 東京美術学校朝鮮留学生の就学分布
 3. 東京美術学校留学生の留学生活と「帰国」または「解放」後の進路
- 結びに代えて

キーワード：東京美術学校、朝鮮留学生、
「近代化」、西洋画、呉炳学

はじめに

本稿は科学研究費補助金対象国際シンポジウム「東アジアの植民地「近代化」と戦後」⁽¹⁾にパネラーの一人として参加した際の発表原稿がベースになっている。若干の加筆修正を行ったほか、新たに表6を追加した。

シンポジウムに先立ち研究会を重ねるなかで、筆者はシンポジウムのねらいを次のように理解した。日本統治下の台湾・朝鮮では、両総督府による同化政策が推進されていた。この同化政策がどんなに不平等で高圧的な政策であったかはよく知られたところである。しかし、その同化政策が強行される社会のなかでも、技術面や物の見方・考え方には「近代化」されていく部分があり、それが戦後＝解放後の東アジアの諸地域の歩みに連続していること、あるいは発展

の下支えの一つになっているのではないか。日本の敗戦を以って時期区分してしまえば見えづらくなってしまふカギ括弧付きの「近代化」を、敗戦＝解放を挟んだ30年間のタイムスパンのなかで考察してみようという試みである。

「東アジアの植民地「近代化」と戦後」、このテーマに、筆者は東京美術学校に学んだ朝鮮留学生の留学の経緯や留学生活、「帰国」後の活動を考察することから接近することにした。留学生はそもそも何のために「内地」へ渡ってきたのだろうか。「同化」か「近代化」で言えば、明らかに「近代化」を目指して、自分の専攻する学問分野の最新の知識や技術を身に付けてたくて、万難を排してやって来た学生たちが大半であろう。朝鮮にいたのでは専門・高等教育機関への進学機会は僅かにしかなく、専攻分野によっては「内地」でしか学べないものもある。「美術」がまさしくそうだった。西洋画、新しい画法、材料、素材…、それらは「内地」でなければ身に付けられない知識であり技術であった。西欧に渡り美術を学ぶ余裕などは、経済的にも「日本統治下」という条件的にも殆どなかったはずだ。この「内地」経由の「近代化」は「亜種」なのだろうか。西欧直輸入でなければ「亜種」止まりなのだろうか。

東京美術学校の朝鮮留学生については、『東京芸術大学百年史 東京美術学校篇 第三巻』

(1)主催は大阪経済法科大学アジア研究所・東アジア文化史研究会。2007年9月16日大阪国際交流センターに

て開催。

(1997年) および吉田千鶴子「東京美術学校の外国人生徒(後篇)」『東京芸術大学美術学部紀要』第34号(1999年)、金容澈「東京美術学校の入学制度と朝鮮人留学生」『東岳美術史学』第6号(2005年 Korea)のように美術史研究者による詳細かつ綿密な研究の蓄積がある。また、韓国の近代美術について論じたいくつかの研究⁽²⁾が言及するところでもある。これらの先行研究では、東京美術学校出身者が西洋画を中心として韓国の近代美術の担い手であったこと、ただし、「韓国の場合、洋画は、西洋から直接導入されるのではなく日本を経て入って来ており、日本の近代美術とも密接な関係がある点は、韓国近代美術の発展の重要な特徴の一つである」⁽³⁾と日本経由の「近代化」が指摘されている。

筆者はこれまで教育史の立場から日本統治下の留学生研究⁽⁴⁾を進めてきた。後述するが、朝鮮留学生の圧倒的多数は政治・経済・法律を専攻し、2・8宣言に代表されるように独立運動、社会運動との関係が深かった。思想統制や取締、弾圧の厳しかった朝鮮社会を脱出して活動の場を「内地」に求めたのであろう。このような留学生の運動も勿論、朝鮮の独立、朝鮮の「近代化」を模索したものとして研究対象に成り得るが、今回は「内地」でしか得ることのできなかった近代学問(知識・技術)を学び、それを朝鮮に持ち帰った留学生を対象にしたかった。そう

考えたときに芸術(=美術)が浮かんだ。美術という分野は技術やセンスを伴わなければ専攻できない分野である。近代美術界で「東洋のメッカ」といわれた東京美術学校の朝鮮留学生は、朝鮮の美術分野の「近代化」にどのような役割を果たしたのか。まずは日本統治下朝鮮留学生の全体像から美術を専攻した留学生の位置についてみておきたい。

1. 日本統治下朝鮮留学生の全体像と美術専攻留学生

日本統治下の朝鮮から「内地」に留学した学生の総数を正確に把握することは難しい。既に生活の基盤を「内地」に移している場合、統計上に表れた数値を留学生と把握していいかという問題もあれば、創氏改名で日本式の「氏名」を名乗っていた場合、本籍地が明記されていない限り見落としてしまう可能性もある。表1は大正9(1920)年から昭和14(1939)年までの学校種別の朝鮮留学生数である。時期の限られた部分的な数値ではあるが、どの学校種においても留学生数が上昇している様子、専門・高等教育機関に大多数の留学生が参集していることを読み取ることができる。各種学校には進学予備校も含まれており、この予備軍を加えればさらにその数値は上がる。

(2)おもな研究には以下のものがある。中村義一「台展、鮮展と帝展」、京都教育大学紀要 Ser.A、No.75、pp.259~276、1989/金英那「韓国近代洋画における「裸体」」、東京国立文化財研究所『東アジア美術における<人のかたち>』、pp.305~319、1994/李仲熙「日本での朝鮮絵画の調査」、日韓文化交流基金『訪日学術研究者論文集-アカデミック-』第3巻、pp.591~603、1994.4~1995.3/李仲熙「朝鮮美術展覧会」の創設について、明治美術学会『近代画説』第6号、pp.21~39、1997/李仲熙「朝鮮美展」東洋画部における人物画の研究-韓国近代人物画の成立-、中央公論美術出版『大正期美術展覧会の研究』、pp.575~588、2005。

(3)金英那「韓国近代洋画における「裸体」」、東京国立文化財研究所『東アジア美術における<人のかたち>』、

pp.307、1994。

(4)筆者のこれまでの留学生研究には以下のものがある。「青山学院の台湾・朝鮮留学生に関する記録【1906-1945】(I)~(III)」、青山学院大学教育学会紀要『教育研究』、48~50号、2004~2006/青山学院と戦前の台湾・朝鮮からの留学生」、教育史学会『日本の教育史学』、47集、pp.149~168、2004.10/渡部宗助との共著「戦前の台湾・朝鮮留学生に関する統計資料について」、植民地教育史研究年報『植民地教育体験の記憶』、7号、pp.82~99、2005.3/渡部宗助との共著「戦前の台湾・朝鮮からの留学生年表(稿)」、植民地教育史研究年報『植民地国家の国語と地理』、8号、pp.127~138、2006.5。

東京美術学校の朝鮮留学生

表1 朝鮮留学生の学校種別在学状況

	大学 学部	大学 予科	高等 学校	専門 学校	大 学 専門部	実業専 門学校	師範 学校	中学校	高 等 女学校	実業 学校	各種 学校	合計
大正9年10月	29	40	—	384			—	99		72	517	1141
大正14年7月	122	246		360	約500	—	—	267	83	485	500超	2563
昭和元年12月	214	169	153	1035		142	91	424		207	1510	3945
昭和2年末	222	177	155	952		166	79	385		281	1444	3861
昭和4年末	336	299	135	1106		—	69	540		478	806	3769
昭和5年末	423	340	96	412	690	—	8	598	64	744	418	3793
昭和6年末	365	343	71	320	655	—	4	813	54	606	269	3601
昭和7年末	436	312	72	345	625	—	4	799	58	603	114	3368
昭和8.10.1	453	423	42	376	642	—	4	858	44	475	770	4087
昭和9.10.1	539	498	34	465	746	—	5	857	40	644	735	4519
昭和10.10.1	549	534	164	554	821	—	2	987	68	536	739	4954
昭和11.10.1	750	731	191	653	1216	—	0	1191	69	555	1041	6397
昭和13.10.1	1207	958	84	873	1361	—	0	1682	102	1324	1495	9086
昭和14.10.1	1401	1041	118	1075	2591	—	0	1732	125	1092	1794	11007

【出典】朝鮮総督府学務局「在内地朝鮮学生状況」〔大正10年〕、「大正十五年在内地朝鮮学生状況」、朝鮮教育会奨学部「昭和元年十二月現在在内地朝鮮学生調」、「昭和二年十一月現在 同」、「在内地朝鮮学生状況調（昭和五年末現在）」（以上、『日本植民地教育政策史料集成（朝鮮篇）』第51巻（下）所収）、『奨学部報』19号、同20号、同22号、同23号、同24号、同27号より作成。

表2 朝鮮留学生の専攻分野別在学状況

	法	経済	商	理	工	農林	水産	師範	文	音楽	美術	家政	医	薬	合計
昭和元年末	607	205	447	61	514	114	10	243	320	33	36	—	149		2740
昭和2年末	448	213	474	106	547	157	13	182	369	45	50	—	146		2750
昭和5年末	667	290	215	80	58	141	7	95	433	14	42	30	99	4	2175
昭和6年末	634	317	201	43	42	230	3	84	402	14	30	27	71	9	2112
昭和7年末	567	241	152	21	18	116	1	78	263	4	27	27	80	8	1603
昭和8.10.1	590	168	140	11	61	60	4	55	125	7	23	44	65	15	1368
昭和9.10.1	671	283	235	23	68	63	2	65	166	14	30	64	76	30	1785
昭和10.10.1	939	296	301	11	56	82	2	—	120	17	37	103	82	37	2183
昭和11.10.1	1248	313	337	24	78	154	4	—	186	25	31	93	77	56	2732
昭和13.10.1	1579	580	455	21	68	180	4	—	298	78	44	110	149	83	3747
昭和14.10.1	1924	738	801	52	185	364	6	—	439	64	87	79	121	115	5075
合計（延数）	9874	3644	3758	434	1695	1661	56	802	3121	315	437	577	1472		—

【出典】朝鮮教育会奨学部「昭和元年十二月現在在内地朝鮮学生調」、「昭和二年十一月現在 同」、「在内地朝鮮学生状況調（昭和五年末現在）」（以上、『日本植民地教育政策史料集成（朝鮮篇）』第51巻（下）所収）、『奨学部報』19号、同20号、同22号、同23号、同24号、同27号より作成。

表2は専門・高等教育機関に在籍した留学生を専攻別に集計したものである。合計は延べ数であるため正確な人数はわからないが、傾向を読み取ることはできる。法学が延べ9,874名と圧倒的に多く、経済、商業がそれに続く。これと対照的なのが理学と芸術系の音楽、美術である。台湾と比較してみると、台湾留学生の進学先は医学・薬学系が圧倒的に多く、その差異は顕著である。また、美術専攻留学生は全体からみれば少数であったことが確認できる。

美術を専攻した場合、「内地」の専門学校には、東京美術学校のほかに女子美術専門学校があった。女子美術専門学校には羅蕙錫（1896—1948）をはじめとして数名の女子朝鮮留学生在籍していたようである。この他にも、帝国美術学校や川端画学校のように美術を教える教育機関はあったが、各種学校の範疇で、この統計に含まれているかどうかは不明である。帝国美術学校には約150名の朝鮮留学生⁽⁵⁾が在籍していたという。

続いて表3を参照されたい。官費留学生の専攻別就学状況である。官費留学生制度は、もともと韓国併合(1910)以前に、独自の手による近代化を模索していた大韓帝国政府が創設したものである。この制度は「併合」以後も、朝鮮総督府によって引き継がれるようなかたちになり、明治44(1911)年「朝鮮総督府留学生規程」(府令70号)が公布され、改正を経た末に大正9(1920)年の「在内地官費朝鮮学生規程」(府令170号)で朝鮮留学生在内地官費朝鮮学生となり、大正11(1922)年の「在内地給費生規程」(府令44号)で給費生となった。官費留学生時代から続けられてきたこの制度は、昭和5(1930)

年を以って給費生の選定を打ち止めにした。官費生(給費生)制度で採用された留学生は、総督府の政策を反映して農業、工業、商業、医学など実業系を専攻している。明らかに私費留学生の傾向とは異なっている。さらに芸術系はどうかというと、当初は官費留学生の専攻対象にさえなっていなかった。大正9年度から加わった背景としては、武断政治から文化政治の移行期にあったこと、芸術運動の盛んな時期であったことなどが考えられる。

2. 東京美術学校朝鮮留学生の就学分布

東京美術学校(以下、「美校」と略す)の朝鮮籍の留学生は全部で89名、そのうち64名が卒業した。中国籍の留学生は96名いたが、卒業者は半数に満たない45名、台湾籍は29名中、21名が卒業だった。この数値からも朝鮮留学生の美術に対する関心の高さを伺い知ることができる。

美校の就学形態は大きく分けて4通りあった。本科生、選(撰)科生、特別学生、聴講生である。選科生とは「本科入学ノ資格ヲ有セサルモ本科各科ノ実技ノミヲ学習セント欲スル者ハ本科生ニ欠員アル場合ニ限り銓衝ノ上選科ニ入学ヲ許可ス」(「東京美術学校規則選科規程」第33条)とあるように、本科生のカリキュラムのうち実技のみを履修する学生をいい、本科に欠員がある場合に入学することができた。特別学生とは「東京美術学校外国学生特別入学規程細則(大正13年2月)」に基づき、「相当学歴アル外国学生ニシテ本校ニ入学ヲ志願スル者ハ外務省、在外公館又ハ本邦所在ノ其国公館ノ紹介アルモノニ限り詮議ノ上入学ヲ許可」された者をいった。

(5)帝国美術学校の朝鮮留学生については、韓国近現代美術記録研究会(編)『帝国美術学校と朝鮮人留学生たち1929—1945』、2004〔Korea〕に詳しい。pp.89—92には147名分の名簿が掲載されている。ちなみに帝国美術学校は専門学校への昇格を目指しており、各種学校でありながら「専門学校に準ずる学校」として徴兵

猶予や文部省検定試験受験資格の特典を有していたという。尚、本書には吉田千鶴子「東アジア美術の近代化における東京美術学校の役割」が収録されており、そのなかで吉田氏は近代化を「西欧化ないし西欧の刺激による伝統の再生」と定義しておられる。

表3 朝鮮官費留学生の専攻別就学状況

	政治 法律	農林 (農業)	蚕業	水産 (業)	工業	商業	医学	教育	美術	音楽	其ノ他	合計
明治43年度	3	6	0	0	9	4	1	2	—	—	7	32
44年度	2	13	4	1	8	4	7	2	—	—	3	44
大正元年度	1	18	0	0	10	6	10	2	—	—	3	50
2年度	0	14	4	0	12	3	11	2	—	—	1	47
3年度	0	11	0	2	10	4	16	2	—	—	2	47
4年度	0	4	0	1	7	2	10	2	—	—	1	26
5年度	0	5	0	1	4	3	10	5	—	—	1	29
6年度	0	4	0	1	2	1	4	4	—	—	1	17
7年度	0	5	0	2	4	4	8	6	—	—	2	30
8年度	0	6	0	0	6	10	11	9	—	—	3	47
9年度	0	2	0	0	3	8	7	10	1	1	3	35
10年度	2	1	0	0	3	6	7	9	3	1	1	33
11年度	3	2	1	0	6	9	9	12	5	1	5	53
12年度	0	3	1	0	7	8	10	15	5	0	7	56
13年度	1	4	1	0	3	7	4	8	3	0	6	37
14年度	0	7	2	1	7	7	12	14	7	0	20	76
昭和元年度	4	3	8	1	7	7	12	10	2	0	27	81
2年度	6	7	12	4	10	6	13	0	3	0	20	78
3年度	4	6	17	5	6	5	18	7	1	2	11	81
4年度	3	10	13	4	4	3	18	9	1	3	8	77
5年度	2	6	4	1	3	1	12	3	0	1	10	46
6年度	2	2	0	0	1	0	5	1	0	0	3	15
7年度	2	0	0	0	0	0	4	0	0	0	2	8
8年度	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
9年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計(延べ)	36	140	67	24	132	108	219	134	31	9	147	

【出典】朝鮮総督府『統計年報』各年度版「官費留学生状況（内地留学）」

【付記】①留学生数は各年度末日調査によるものである。②明治43年度から大正3年度まで、「教育」は「其ノ他」に含まれていた。大正4年度版で修正されている。③大正11年度版から「官費留学生」は「在内地給費生」となる。④「美術」、「音楽」は大正9年度から新たに加わった履修学科である。⑤昭和11年度版（昭和13年3月刊行）から昭和13年度版（昭和15年3月刊行）に「在内地給費生」に関する統計はない。以後は未見。

入学資格に相当する学歴というのは「中学校卒業程度」で、一般の入学者と同じ選抜試験に合格しなければならなかった。入学すれば実技のほかに「所定ノ諸学課ヲ兼修」することになっていた。同附則「本細則ノ規程ハ台湾及朝鮮ノ学生ニシテ本校ニ入学スル者ニ之ヲ準用スルコトアルベシ」により、朝鮮留学生も特別学生として入学するチャンスがあったが、昭和4（1929）年4月10日の文部省通牒官専200号でこの資格は失われた。「各科卒業生道府県別表 昭和14年7月10日調」によれば、朝鮮籍の卒業生51名のうち、25名が特別学生であった。

朝鮮留学生の美校内での学科別在籍数を示したのが表4である。本科生・選科生の表4-①と特別学生の表4-②に分かれていることと、美校内の学科の改編でそれぞれの表がさらに二つに分かれているため、若干見づらくなっているが、朝鮮留学生の多数が西洋画科（油画科）に在籍していることがわかる。本科、選科、特別学生、さらにそれらの課程を終えた後に進学する研究科と、いずれの就学形態にせよ、毎年、複数名の朝鮮留学生が継続して在籍していたことがわかる。

西洋画科に人気が集まったのは、日本の学生

表4-① 東京美術学校の外国人生徒 [本科・選科]

種別 年度	本科		選科							図画師範科			研究生			計					
	油画科		日本画科		西洋画科		図案科		彫刻科塑造部、同木彫部			漆工科	支	朝			台	支	朝		台
	朝	台	朝	支	朝	台	支	朝	朝	台	朝	支	朝	台	支		朝	台	支	朝	台
大正9			1	14	4	1	1		1					2					1		25
10			1	15	8		1		2									1		1	29
11			1	13	10	2	2		1											1	30
12				12	10	2	1	1	1				1	1							29
13				8	13	2	1	1	1				1	3	1						31
14													2	3	1						6
15					5	2		1					2	3	3	1					17
昭和2					3			1	2	1			3	2	3				3		18
3	1								2	1			2	3	2				3		14
4	3								2	1	1		1	2	1	1	2				14
5	3								2	1	1			1	2						10
6	4	1									1				2						8
7	4	1									1										6

注) 東京藝術大学百年史第三巻pp.1152~1153をもとに作成。原本では本科(油画科)の人数が合計の中に含まれていないのを改めた。

種別 年度	本科									選科			研究生			計				
	油画科			彫刻科		工芸科		建築科	油画科	彫金部	師範科	支	朝		台					
	朝	台	米	朝	台	朝	台	朝	台	支	台	米	支	ア	フ		イ	支	朝	台
昭和8	3	1			1												2	1		8
9	3	1			2							1					2			9
10	3	1			3				1			1					2			11
11	3	1			3	2		1	1			1					2	1		15
12	3	1			5	1	1	1	1	1		1								15
13	8	1			4	1	1	1				1							1	18
14	9	1			2	1	1	1						1					2	18
15	10	2			2	1	1	1						1					1	19
16	9	1			2		2							1					2	17
17	9	1			2		1							1					2	16
18	6	1			3	1	1		1											13
19	1	1			2	1	1		1			1		1						9
20	1	1			2	1	1		1			1		1						9
21	2				3	1			1			1		1					1	10
22	2								1							1			1	5
23	2								1											3
24	1		1						1											3
25	1								1											2
26	1																			1

表4-② 東京美術学校の外国人生徒〔特別学生〕

種別 年度	特別学生								計
	西洋画科			彫刻科塑造部			図案科		
	支	朝	台	支	朝	台	支	朝	
大正14	8	15	3					2	28
15	6	10	2		1	1		2	22
昭和2	3	16	3					1	23
3	5	18	4					1	28
4	5	17	5				1	1	29
5	7	13	4	1				1	26
6	7	9	3	2			1		22
7	5	3	2	1					11

種別 年度	特別学生															計		
	日本画科		油画科					彫刻科			工芸科			建築科	師範科			
	選	支	選	支	朝	台	関	満	塑造部		木彫部	図案部		彫金部	鋳金部		支	イ
									支	台		支	満					
昭和8				3	2	1	1	1										8
9				4			1	1	3	1								10
10				4			1	1	3	1	1		1	1				13
11				4				3	2	1			1	1	1			13
12				3			2	2	1			1	1	1		1		12
13	1			3			3	1	2			1	1		1	1		14
14	1			3			1	1	2			1	1		1	1		12
15	1			3			1	1	2			1	1		1	1		12
16	1			3			1	1	3			1	1		1	1		13
17	1			4			1	1	3			1			1	1		13
18		1	1	5			1	1	3			1			1	1		15
19		1	1	5					2			1			1	1		12
20		1	1	3					1									6
21		1	1	8					1								1	12
22		1		4	3	2			1				1				1	13
23				4	2	2			1				1					10
24				1	1				1				1					4
25				1	1				1									3
26				1	1				1									3

注) 東京藝術大学百年史第三巻 pp.1152~1153をもとに作成。原本では日本画科の人数が合計の中に含まれていないのを改めた。他に外国人特別研究生として昭和21、22、23年師範科に台湾人各2、同25年日本画科にベルギー人1、油画科に中国人1、彫刻科に米国人1、工芸科漆工部に仏国人1あり。

とて同じことだった。画材といい、技法といい、モチーフといい、西洋画（油画）は東アジアの近代以前にはない、全く新しい絵画の世界だった。当初、日本画科と西洋画科はほぼ同数の定員を募集していたが、徐々に2倍、3倍と西洋画科の学生数は増えていった。もちろん志願者が増えたためであろう。聞くところによれば、美校のリベラルな校風は学生の気質や教室の経営にも表れていたようで、普段は殆ど学校に姿を現さずにコンクール（作品の提出と評価）の時だけやって来る学生もいれば、座席が空いていれば新たな学生を受け入れる教員もいたという。西洋画科は日本画科や彫刻科、工芸科に比較すると、一人当たりの学生が使用するスペースが小さくて済んだために増員が可能だった面もあるようだ。

美校のなかで最も倍率の高かったという図画師範科にも朝鮮留学生4名が在籍した。図画師範科は卒業後、教職に就く義務があるものの、学費がかからず3年間で学課と西洋画の実技を学ぶことができた。また、美校の日本画科、西洋画科、図案科は、大正2（1913）年10月8日、文部省告示第167号により教員無試験検定指定学校となっていたために、図画師範科を卒業せずとも教員になることはできた。朝鮮留学生を含めて美校生が創作活動を続けながら生活するには、余程、裕福な家柄でもない限り教員になるのが常だった。後掲の表5に明らかなように、朝鮮留学生の多くも、卒業後は美術教師の道を歩んでいる。

3. 東京美術学校留学生の留学生活と「帰国」または「解放」後の進路

美校の朝鮮留学生の留学生活がどのようなものであったかを示す資料は少ない。校友会の会報誌に掲載された蹴球部の写真（そこには日本の学生と朝鮮や台湾出身の学生がチームメイトとして肩を並べ微笑んでいる）や『百年史』に掲載された卒業制作の自画像⁽⁶⁾をはじめとする作品群があるばかりである。

美校では朝鮮留学生に限らず外国人学生に対して差別的な処遇をすることはなかったという。西洋画科の二人目の朝鮮留学生、金観鎬は首席で美校を卒業している。卒業制作の自画像と「夕ぐれ」が95点という高得点であったためだが、リベラルな芸術家集団は作品の佳さを真っ当に評価したのである。

また、朝鮮留学生には美校の外での「顔」や生活があったことも忘れてはならないだろう。都相鳳（後掲表5 No.17）のように3・1独立運動に参加して投獄経験のある留学生がいることから、他校の留学生同様、学外の朝鮮留学生組織のメンバーもいれば、朝鮮の独立や「近代化」を希う青年もいたはずである。都相鳳は「鮮展」⁽⁷⁾には一度も出品せずに、日本の統治に対する反骨精神を貫き通している。さらに戦時下になれば軍事教練や学徒動員、徴兵で戦争に借り出された留学生もいたはずである⁽⁸⁾。戦時下の物資不足や統制の厳しさが増すなかで、朝鮮留学生がどのような生活を強いられていたの

(6) 朝鮮留学生の自画像は、吉田千鶴子「東京美術学校の外国人生徒（後篇）」『東京芸術大学美術学部紀要』第34号（1999年）pp.100～111の「参考図版」に全作品が掲載されている。自画像のほか東京芸術大学美術学部所蔵の卒業制作（優秀作品）も掲載されている。また、これらの作品をカラーで収録しているものとして、国立近代美術館企画『韓国美術100年①』、2006 [Korea] などの美術書が刊行されている。

(7) 朝鮮美術展覧会の略称。1922～1944に開催された朝

鮮総督府主催の美術展覧会で、美校の教員や卒業生も多数参加した。(2)で取り上げた中村義一論文、李仲熙論文に詳しい。

(8) 東京芸術大学美術学部の同窓会誌『杜』4号には、東京美術学校時代の朝鮮留学生、金興洙氏の「戦時下の留学生活裏表」（西大由氏編集）が掲載されている。戦時下の東京美術学校の様子、軍事訓練や朝鮮留学生の置かれていた位置について綴られており興味深い。

かも把握しておかなければならない課題である。

表5と表6を参照されたい。表5は朝鮮留学生の個人別一覧である。左から通し番号、留学生の名前、生没年、出身、学科、所属（本科・選科などの別）、入学年月、卒業（または退学）年月、入学前の学歴、卒業後の進路（解放の前後）、備考となっている。表6は、表5の「入学前の学歴」と「卒業後の進路」に着目し、日本経由の「近代美術」が朝鮮半島にどのように還元されていったのかを表した試作の表である。矢印で示したのが美校の在学期間であり、矢印の左側が入学前の学歴、矢印の右側が卒業後の進路（就職先）となっている。表6を見ると、明治41(1908)年の最初の留学生の入学以来、美校の朝鮮留学生は途絶えることがなかったことがわかる。

ここでまず注目したいのが入学前の学歴である。大半の学生が朝鮮で中等教育機関（高等普通学校、中学校）を終えており、培材高等普通学校、崇実高等普通学校のようなミッション系の私立学校、または普成高等普通学校、徽文高等普通学校のような民族系の私立学校出身者が多いことがわかる。朝鮮の私立学校は「併合」以前の1908年に2,250校と最も多かった。規模の大小や学校としての充実度に差はあったが、それだけ近代教育への関心が高かったことを示している。大韓帝国政府による近代学校の創設もあったが、民間レベルで近代教育を導入することが試みられていた。日本の統治下において、これらの私立学校は「不穏な思想を注入」という理由で取締の対象になり、その数は激減していくが、先に挙げた私立学校では中等教育機関としての機能を十分に果たし、「内地」の上級学校へと人材を輩出していたことが証明される。

次に卒業後の進路をみると「解放前」では中

等教育機関の美術教師になっている場合が多く、「解放後」は1946年から創設され始めた新制大学（ソウル大学校美術大学、梨花女子大学校美術大学、弘益大学校美術大学などの高等教育機関）の美術学部の創設者、乃至は教授になっているケースが目立つ。美術関係者の集う組織もいくつか誕生しているが、いずれ美校の朝鮮留学生が創設者、重鎮としての役割を果たしていた。

「解放前」の進路では、函館の大谷高等女学校に勤務した孫一峰（No.56）の例を除けば、美校の朝鮮留学生たちは朝鮮に帰って創作活動を行う傍ら、中等教育機関で新しい美術教育を後進たちに伝えていたことになる。日本国内でもそうであったが、美術教育は臨画の時代から写生画、自在画、考案画と絵画の種類を拡大していく時期にあり、初等教育の図画にしる、中等教育の美術にしる、週当たりの授業時数は1～2時間と決して多くはないものの、新しい美術教育の導入に彼らが貢献したことが推察される。

また美術という領域は専攻する人も志願する人も限られるために、初期の美校留学生に後進の留学生が師事していたという側面もある。例えば、高義東（No.2）は美校卒業後、朝鮮に帰り、私立中央学校などで美術教師をしていたが、高義東のもとには同校だけでなく、徽文高等普通学校、普成高等普通学校の美術部員が集まり、木炭画による石膏のデッサンなどの指導が行われていた。高義東の中央学校の後任には李鍾禹（No.7）が就任した。中央学校には1930年代になるとアトリエが設置され、中央学校以外の学生にも開放された。ソウルで美術を志す学生たちの常設制作室の機能を果たしたわけである⁽⁹⁾。当時、徽文高等普通学校の生徒だった李馬銅（No.45）をはじめ、金瑤煥（No.35）、吉鎮燮（No.47）なども集うところとなった。李馬銅は徽文高等

(9) 李慶成『近代韓国美術家論攷』一志社、1974、p79。

表5 東京美術学校朝鮮留学生一覧

No.	名前	生没年	出身	学科	所属	入学年月 [退学年月]	入学前の学歴	卒業後の進路		備考
								解放前	解放後	
1	朴鎮采	—	—	日本画科	撰科	1908.9	—	—	—	朝鮮美術学校(朝鮮)出身
2	高毅東	1886~1965	京畿道京城府	西洋画科	撰科	1909.9	—	私立中央学校	美術界の重鎮・参議院議員	—
3	金觀鑄	1890~1959	平安南道平壤郡	西洋画科	撰科	1911.9	1915.3	—	—	朝鮮美術学校(朝鮮)出身
4	金瓚永	1893~1980	平壤内川	西洋画科	選科	1912.9	1917.3	明治学院	—	朝鮮美術学校(朝鮮)出身
5	金鎮燮	1891~1917	京畿道富川郡	彫刻科(牙彫部)	選科	1914.4	[1917]	私立普光学校中等科	—	在学中に病死
6	李漢福	1898~1940	京畿道富川郡	日本画科	選科	1918.9	1923.3	朝鮮書画美術会で修業	—	—
7	李鍾馬	1899~1981	黄海道鳳山郡万泉面	西洋画科	選科	1918.9	1923.3	—	—	—
8	金昌燮	1888~	京畿道京城出身	西洋画科	選科	1920.9	1925.3	明治学院普通学部2年	—	—
9	張劬	1901~	京畿道京城府	西洋画科	選科	1920.9	[1922.9]	私立普成高等普通学校	—	—
10	金鎮衡	1901~1988	京畿道開城郡松都面	西洋画科	選科	1920.9	1925.3	同志社中学	—	—
11	金漢興	1901~1940	忠清北道永同郡水回面	彫刻科(木彫部)	選科	1920.9	1925.3	私立中東学校高等科	—	—
12	張翼	1900~	朝鮮平安道	西洋画科	特別学生	1921.9	1927.3	私立普成高等普通学校	—	—
13	李炳圭	1901~1974	京畿道安城郡瑞雲面	西洋画科	選科	1921.9	1926.3	私立普成高等普通学校	—	—
14	李濟昶	1896~1954	京畿道京城府	西洋画科	選科	1921.9	1926.3	和蘭語習得班(心臓教)	—	—
15	金昌棧	1897~	平安北道龍川郡	西洋画科	選科	1920.9	1927.3	私立普成高等普通学校	—	—
16	郭胤模	1902~	平安北道鎮南浦府	彫刻(象牙彫造部)	選科	1921.9	1922.6	私立普成高等普通学校	—	—
17	都相鳳	1902~1977	咸鏡南道洪原郡州翼面	西洋画科	選科	1922.9	1927.3	私立普成高等普通学校	—	—
18	孫昌漢	1902~	平壤府出身	西洋画科	選科	1922.9	[1924.2]	平壤高等普通学校	—	—
19	金昌龍	1898~	慶尚南道釜山府	西洋画科	選科	1922.9	[1924.2]	東萊高等普通学校	—	—
20	朴弘眞	1902~	京畿道開城郡松都面	西洋画科	特別学生	1923.4	1928.3	附城第一公立普通学校	—	—
21	金瑛植	1898~1980	全羅南道麗水面	西洋画科	特別学生	1923.4	1928.3	京城第一高等普通学校	—	—
22	康尚柱	1903~	黄海道軍器郡南葉面	西洋画科	特別学生	1923.4	1928.3	私立培材高等普通学校3年修業	—	—
23	李亨宰	1900~	忠清南道平安郡葛田面	図案科(第一)	特別学生	1923.4	1928.3	私立中東学校中等科	—	—
24	金占樸	1903~	江原道鉄原郡葛松面	図案科(第一)	特別学生	1923.4	1928.3	京城第一高等普通学校	—	—
25	申用雨	1903~	京畿道京城府水標町	西洋画科	特別学生	1924.4	1929.3	京城中学校中退	—	—
26	金浩煥	1902~	慶尚北道大邱府明治町	西洋画科	特別学生	1924.4	1929.3	大邱私立種南学院高等科	—	—
27	尹聖錫	1904~	京畿道高陽郡恩平面	西洋画科	特別学生	1924.4	[1926.3]	平壤高等普通学校	—	—
28	黄述非	1904~1939	慶尚北道道州郡慶州面	西洋画科	特別学生	1925.4	1930.3	私立普成高等普通学校	—	—
29	李秉燮	1905~1983	忠清南道京城府	西洋画科	特別学生	1925.4	1930.3	京城中学校第1年修業	—	—
30	宋秉敦	1902~1967	忠清南道普州郡井村面	西洋画科	特別学生	1925.4	1930.3	公州公立普通学校	—	—
31	姜信福	1904~1927	慶尚南道晋州郡井村面	西洋画科	特別学生	1925.4	[1927.7]	京畿道高等普通学校2年修業	—	—
32	朴南洙	1905~	全羅南道海南郡花山面	図案科	特別学生	1925.4	[1927.5]	私立培材高等普通学校3年修業	—	—
33	金宗陸	1902~1981	慶尚北道大邱郡文白面	西洋画科	特別学生	1925.4	1928.3	京城第一高等普通学校	—	—
34	金宗陸	1904~1967	慶尚北道大邱郡南山町	西洋画科	特別学生	1926.4	1931.3	京城中央高等普通学校	—	—
35	吳占素	1905~1982	全羅南道和順郡同福面	西洋画科	特別学生	1926.4	1931.3	私立培材高等普通学校	—	—
36	林学善	1904~	京畿道京城不	西洋画科	特別学生	1926.4	1931.3	私立培材高等普通学校	—	—
37	金瓜杓	1902~	平安南道平壤	西洋画科	特別学生	1926.4	1931.3	義州養妻学院在	—	—
38	金瓜杓	1902~	平安南道平壤	彫刻科(塑像部)	特別学生	1926.4	1931.3	平壤高等普通学校	—	—
39	李順石	1905~1986	平安南道京城府	図案科	特別学生	1926.4	1931.3	京城府神品学校	—	—
40	鮮于膺	1904~1984	平安南道大同郡奈山面	西洋画科	特別学生	1926.4	1929.3	平壤高等普通学校	—	—
41	朴銀錫	1902~	全羅南道麗水郡麗水面	西洋画科	特別学生	1927.4	1932.3	私立培材高等普通学校(在修業)	—	—
42	朴銀弘	1905~	全羅北道全州高砂町	西洋画科	特別学生	1927.4	1932.3	私立培材高等普通学校	—	—
43	李景燾	1901~	慶尚南道陞陝川面	西洋画科	特別学生	1927.4	1932.3	京城五星学校3年修業	—	—

46	李馬銅	1906~1981	忠清南道牙山郡靈仁面	西洋画科	特別学生	1927.4	1932.3	私立畿文高等普通学校	普成高等普通学校美術教師	弘益大学校美術大学教授	牧日会、書画協会に参加
46	魏三致	1907~	平安北道義州郡古津面	西洋画科	特別学生	1927.4	1932.3	定州山岳高等普通学校3年修業	—	—	—
47	吉鎮燮	1907~1975	平安南道平壤府	西洋画科	特別学生	1927.4	1932.3	平壤崇美中学校	美術教師	独立美術製作所所長	韓国書院(現忠清南道)
48	金瓜瑾	1907~1977	京畿道京城府	西洋画科	特別学生	1927.4	1932.3	私立普成高等普通学校	普成高校美術教師	—	—
49	文錫五	1907~	平安南道平壤府	彫刻科塑像部	理科	1927.4	1932.3	平壤第一公立普通学校	—	—	—
50	金道脚	1907~	京畿道京城不	西洋画科	理科	1927.4	1932.3	京城第一高等普通学校	—	—	—
51	洪得順	1908~	京畿道水原郡水原面	西洋画科	特別学生	1928.4	1933.3	私立培材高等普通学校	—	—	—
52	金斗濟	1908~	全羅南道郡馬山面	西洋画科	特別学生	1928.4	1933.3	光州公立高等普通学校	—	—	—
53	崔鳳彬	1907~	平安北道義州郡	西洋画科	特別学生	1928.4	[1930.5]	養美学院高等科3年修業	—	—	授業料滞納除名
54	崔鳳彬	1911~	平安北道義州郡	西洋画科	特別学生	1929.4	1934.3	高敞高等普通学校	梨花高等女学校	—	—
55	李鳳榮	1905~	忠清南道牙山郡温陽面	西洋画科	理科	1929.4	1934.3	京城師範学校	大谷高等女学校(函館市)	—	—
56	孫一峰	1907~1985	慶尚北道慶州郡見谷面	漆工科	理科	1929.4	1933.3	函山工芸学校	研究科入学 その後除名	—	—
57	姜昌奎	1908~1962	慶尚南道咸安郡咸安面	西洋画科	理科	1929.4	1933.3	蔚山工芸学校	研究科入学	梨花女子大学美術科創設	朝鮮で韓地留置受賞(1987)
58	文昌求	1908~1962	慶尚北道大邱府鳳山街	西洋画科	理科	1931.4	1936.3	蔚山工芸学校	研究科在学	梨花女子大学美術科創設	—
59	金仁承	1911~	京畿道開城府北本町	西洋画科	理科	1932.4	1937.3	開城公立商業学校	研究科在学	梨花女子大学美術科創設	—
60	徐鎮達	1910~1947	慶尚北道大邱府鳳山街	油画科	理科	1934.4	1939.3	東萊公立高等普通学校	大邱で美術教師	釜山で美術研究所	—
61	尹承旭	1915~1992	京畿道開城府北本町	彫刻科塑像部	理科	1934.4	1939.3	京畿道文高等普通学校	研究科在学	ソウル大学校美術大学教授	—
62	金景承	1915~1992	京畿道開城府北本町	彫刻科塑像部	理科	1934.4	1939.3	京畿道高等普通学校	京城師範学校	弘益大学校美術大学教授	—
63	馮東和	1913~	黄海道海州郡海州村	彫刻科塑像部	理科	1935.4	[1937.12]	海州高等普通学校	—	—	授業料滞納除名
64	李純鍾	1915~1979	京畿道京城府	油画科	理科	1936.4	1941.3	京城公立第一高等普通学校	—	—	—
65	奇義剛	1913~	慶尚南道金海郡金海邑	油画科	理科	1936.4	[1939.9]	培材高等普通学校	—	—	—
66	金鍾英	1915~1982	慶尚南道昌原郡昌原面	彫刻科塑像部	理科	1936.4	1941.3	京城徽文高等普通学校	研究科在学	ソウル大学校美術大学教授	—
67	金在善	1918~1948	慶尚南道馬山府牧町	油画科	理科	1937.4	1941.12	蓬萊公立高等普通学校	解放後ソウル中学校教師	—	—
68	尹圭奉	1917~	京畿道仁川府花水町	彫刻科塑像部	理科	1937.4	1941.12	京城徽文高等普通学校	—	—	—
69	尹孝重	1917~1967	京畿道仁川府花水町	彫刻科木彫部	理科	1937.4	1941.12	京城徽文高等普通学校	—	—	—
70	金河龍	1915~	咸鏡北道鎭城郡梧村面	油画科	理科	1938.4	1942.9	錦城公立高等普通学校	—	—	—
71	鄭寛濬	1916~1983	平安南道平壤府	油画科	理科	1938.4	1942.9	平壤公立高等普通学校	平壤公立商業学校美術教師	—	—
72	鄭玄永	1918~	黄海道海州郡海州邑	彫刻科塑像部	理科	1938.4	1942.9	海州公立高等普通学校	—	—	—
73	韓相益	1916~	咸鏡南道咸州郡西面	油画科	理科	1938.4	1942.9	朝鮮書院(現忠清南道)	—	—	—
74	李海晟	1916~	京畿道	油画科	理科	1939.4	1943.9	徽文中学校	—	—	—
75	金永曼	1921~1940	平安南道平壤府柳町	油画科	理科	1939.4	1940.8死亡	—	—	—	—
76	金興洙	1919~	咸鏡南道咸興府大和町	油画科	理科	1940.4	1944.7	咸鏡南道公立中学 川端画学校	—	—	—
77	李達周	1920~1962	黄海道延白郡花城面	油画科	理科	1940.4	1944.9	海州東公立中学校	—	—	—
78	朴勝鳳	1919~	京畿道京城府司諫町	彫刻科木彫部	理科	1940.4	1944.9	京城公立中学校	—	—	—
79	仁川相哲	1921~	咸鏡北道	彫刻科塑像部	理科	1941.4	—	—	—	—	—
80	孫東仁	1920~	京畿道	油画科	理科	1942.4	1950.3	—	—	—	—
81	牧山佳秀	1924~	忠清北道	油画科	理科	1942.4	[1944.4]	—	—	—	—
82	安田光男	1921~	朝鮮平安道	彫刻科塑像部	理科	1942.4	—	—	—	—	—
83	李寅斗	1922~	慶尚北道	油画科	理科	1943.4	1952.3	大邱公立商業学校	—	—	—
84	白川泰敏	1921~	慶尚北道	彫刻科塑像部	理科	1943.4	[1944.3]	—	—	—	—
85	大原泰彰	1921~	京畿道	工芸科鍍金部	理科	1943.4	—	—	—	—	—
86	張島基影	1922~	忠清南道	彫刻科木彫部	理科	1945.4	—	私立東京工業学校	—	—	—
87	竹野宏	1929~	平安道	油画科	理科	1946.5	[1948.3]	—	—	—	—
88	李知敏	1925~	忠清北道	油画科	特別学生	1947.9	[1950.3]	—	—	—	—
89	李承徳	1929~	慶尚北道	油画科	特別学生	1947.9	1952.3	—	—	—	—

**吉田千鶴子「東京美術学校外国人生徒(後篇)」および「東京美術学校百年史 東京美術学校 第3巻」に掲載された情報をベースに、その他の資料等から得られた情報を付け加えて筆者が作成したものである。表中のハイフンは不明を示している。

表 6 東京美術学校朝鮮留學生就学期間

	M41M42M43M44M45	T2.T3.T4.T5.T6.T7.T8.T9.T10.T11.T12.T13.T14.T15.S2.S3.S4.S5.S6.S7.S8.S9.S10.S11.S12.S13.S14.S15.S16.S17.S18.S19.S20.S21.S22.S23.S24.S25.S26.S27
1	朴鎮栄 ← ?	
2	高毅東	
3	金錫範 正則予備学校	→ 私立中央学校
4	金漢永 明治学院	→ 朝鮮繪画研究所 → 明星繪画研究所
5	金鎮燮 私立普光学校中等科	→ 進明高等女学校
6	李漢福	
7	李鍾禹	
8	金昌燮	→ 高麗美術院研究所・朝鮮繪画研究所 → 明治学院普通学部2年
9	張勃	→ 京城中央高等普通学校・京城女子商業学校 → 私立普成高等普通学校
10	孔鎮衡	→ コロニア大学で美学・美術史専攻 → 同志社中学
11	金復鎮	→ 朝鮮美術院創立彫刻指導 → 私立中東学校高等科
12	張翼	→ 京城府成成実業学校
13	李昶圭	→ 私立養正高等普通学校
14	李濟昶	→ 私立普成高等普通学校2年修了・仁川商業学校 → 研究生(修業料滞納除名)
15	金貞採	→ 私立嶺新中学校
16	郭胤稷	→ 私立五山中学校
17	鄒相鳳	→ 私立普成高等普通学校 → 平壤高等普通学校
18	孫昌漢	→ 東萊高等普通学校
19	金貴龍	→ 開城第一公立普通学校
20	朴弘鎮	→ 京城第一高等普通学校
21	金鴻植	→ 京城第一高等普通学校
22	張瑞洋	→ 私立培材高等普通学校3年修業
23	任鶴宰	→ 私立中東学校中等科
24	徐亨穆	→ 京城第一高等普通学校 → 培花女子高等普通学校
25	申用雨	→ 京城中学校中退
26	金浩龍	→ 大邱私立燭南学院高等科
27	金溶煥	→ 私立徽文高等普通学校
28	尹聖鶴	→ 平壤高等普通学校
29	黃述祚	→ 私立普成高等普通学校
30	宋海善	→ 京城中学校第1年修業
31	李秉敦	→ 公州公立普通学校
32	姜信鶴	→ 公州公立普通学校
33	朴南洙	→ 京城徽文高等普通学校第2年修業 → 私立培材高等普通学校3年修業
34	金周經	→ 京城第一高等普通学校
35	金溶峻	→ 京城中央高等普通学校
36	吳占寿	→ 私立徽文高等普通学校
37	林学善	→ 私立培材高等普通学校
38	金禮杓	→ 義州養美学院卒
39	金斗	→ 平壤高等普通学校
40	李順石	→ 京城府神品学校
41	鮮干澹	→ 平壤高等普通学校
42	朴根鶴	→ 私立培材高等普通学校3年修業
43	朴魯弘	→ 私立培材高等普通学校

普通学校で高義東や李漢福 (No.7) に絵画の基礎を教わった後、フランス帰りの李鍾禹に学びたくて中央学校のアトリエの門を叩いたという⁽¹⁰⁾。このように朝鮮美術界に美校出身者のネットワークが成立していたといえる。

結びに代えて

朝鮮王朝の美術が主流であった朝鮮の美術界に、美校の朝鮮留学生が持ち帰った「近代」美術とは何だったのか。また、彼らが朝鮮美術界において果たした役割はどのようなものだったのか。本研究を通じて考えてきたことを述べて結びに代えることにしたい。

まず、西洋画 (油画) 自体が、遠近法に代表されるその技法といい、画材といい、紛れもなく「西洋近代」を代表する美術だったのであろう。しかし技法を身につけるにとどまらず、西洋画のモチーフがさらに朝鮮の美術界を「近代化」することになったようだ。例えば「裸体」は、観念の世界を描いていた王朝美術 (東洋画) には全くないものだった。金観鎬の卒業制作「夕ぐれ」は水浴びをする二人の女性の後ろ姿の裸体である。最初、朝鮮社会ではこの絵画を新聞に載せることさえできなかったという。裸体に対する抵抗があったのだ。このように見たままを描く「写実」のスタイルとそのモチーフ自体が衝撃的な「近代化」だったといえることができる。東洋画 (朝鮮の伝統画) の世界でも時期を同じくして、そのモチーフが観念世界から、実際の花鳥風月や風景画へと移行していったという。技法にしろ、モチーフにしろ、相互に影響を与えながら美術世界の「近代化」が進行していったのであろう。

解放後の韓国美術を大きく分けると、東洋画 (韓国画・伝統画)、書 (四君子)、西洋画、工

芸、彫刻 (彫塑) となる。そのうち絵画 (西洋画) について言えば、1946年以降、設立され始めた大学 (梨花女子大学校、ソウル大学校、弘益大学校) に美術学部 (美術大学) が置かれ、日本統治下の美校に代わる韓国美術界の殿堂となった。50年代から60年代にかけて、そこで中心的な役割を果たしたのが美校の出身者だった。その後、抽象画が主流になるまでの間、「解放」を挟む30~40年間、彼らは朝鮮 (韓国) への近代画の導入と発展に邁進したことになる。

日本経由の「近代化」、「近代化」の「亜種」の問題はどうであろう。藤島武二 (1867-1943) が『美術新報』に「朝鮮観光所感」⁽¹¹⁾ という一文を寄せて、「朝鮮は古代の歴史に徴しても、いつも印度、支那の文化の影響を受けつゝ、朝鮮人独特の技能を發揮して居ます。人種の上から見ても、決して劣等人種ではない、若し誘導啓発の道さへ宜しきを得たならば、朝鮮芸術の復興と云ふことも、決して架空の望ではあるまいと思ふ。斯の如く朝鮮人は芸術的才能を有つた人種であるから、政策としても、法律思想などを鼓吹する代りに、芸術的趣味を奨励することは、最其当を得たものであらうと思ひます。」(下線筆者) と述べている。

下線部に注目してみると、藤島は朝鮮人の芸術的才能を高く評価し、朝鮮では古代から異文化の影響を受けながら、それを取り込んで、朝鮮独自の技能を發揮しているという。芸術はもともと創造の産物であり、西欧的なもの、朝鮮の伝統的なもの、日本的なものなどが混在する文化のなかで生み出されるものであることを思うと、たとえ「近代化」の「亜種」であろうと、朝鮮留学生たちはその中から独自の近代を構築するための欠片を發掘し取捨選択していたのではないかとも思えるのである。

最後に吳炳学氏 (表 5 No.87 「竹野宏」) の話

(10) 李慶成『(統)近代韓国美術家論攷』一志社、1989、p33。

(11)『美術新報』30巻5号、1914.3、pp.191。

を紹介して稿を結ぶことにする。呉炳学氏は平壤商業学校の出身で、平壤の古本屋でセザンヌの画集に出会った。美術を学びたいという一心で東京に行き、太平洋美術学校（研究所）から東京美術学校へと進学した。東京美術学校を志したのは安井曾太郎（1888-1955）がいたからである。呉氏によれば、安井はセザンヌの作品を研究し尽くし、ただ真似るだけでなく安井自身の画法を獲得していたという。近代絵画の構図や画法を学ぼうと、セザンヌと安井曾太郎、呉炳学氏が地域や民族を超えて繋がっている印象を受けた。芸術の世界に特有なものかもしれないが、「近代化」の「普遍性」について考える機会を与えられたように思う。

日本経由の「近代化」の「亜種」の問題、「近代化」の「普遍性」の問題は、今後も考え続けていきたい。

〔謝辞〕

本研究を進めるにあたり、東京芸術大学美術学部編纂室の吉田千鶴子氏、誠信女子大学校大学院美術史学科教授の金容澈氏には御教示いただくところが多く大変お世話になった。かつて東京美術学校に在学された呉炳学氏には、美術を志した当時の朝鮮留学生について御自身の体験に基づく貴重なお話を聞かせていただいた。ここに記して謝意を捧げたい。尚、呉炳学氏のお話の詳細は別稿を準備したいと考えている。

また、東アジア文化史研究会のメンバーには資料や助言をいただいた。科研費では国内外の資料調査を行ったが、収集資料の整理やデータ入力では埼玉工業大学学生の劉治栄さんにお手伝いいただいた。研究会のメンバーや劉さんにも感謝したい。